瑞巌寺のこの部屋は天皇と皇族のために設けられた。部屋の床は天皇の高い地位を称えて本堂のどの部屋よりも高くなっている。この部屋は、1609年に建造されて以来、明治天皇が1876年に寺院で一泊するまで使われることがなかった。手織りの畳は、最高級の出来栄えで、建物の他のどれよりも厚くて柔らかい。棚に描かれた赤と白の椿は、長寿と繁栄を象徴している。